

2014 東日本大震災追悼キャンドル 報告書

奈良県立医科大学
医学部医学科 4 年
大西 里奈

1 実施成果の概要

平成 27 年 3 月 11 日（水）、16 時 30 分～20 時 30 分に OCAT 地下 1 階ポルテ広場（大阪市浪速区湊町）において追悼キャンドルを実施した。

約 1400 個のキャンドルで「3.11」、「絆」、の文字と、2014 年度に災害が起きた地域と奈良、和歌山、福島的位置とに印をつけた日本地図を描いた。18 時～20 時のキャンドル点灯中には約 1000 名の来場者があり、震災を風化させないという想いを多くの方と共有することができた。「今自分にできること」の寄せ書きにより、来場者に震災への向き合い方を考えてもらうこともできた。また福島へのボランティアバスの活動を紹介したポスターを掲示することで、2 校の学生による復興支援活動の紹介ができた。会場にはプロジェクターを設置し、「私たちからみた福島」と「福島からみた福島」について、Will として活動するメンバーがそれぞれの立場から撮影した写真をスライドショーにして放映した。

2 成果、改善点について

3 月 19 日（木）に NARAWill スタッフ 5 名で振り返りを行った。

会場の準備前に、スタッフ対して当日の流れの説明や追悼キャンドルの主旨の共有ができたことで、皆が同じ意識を持って概ねスムーズに動くことができた。会場へ足を運んでくださった方には、キャンドルの点灯を手伝ってもらおうと共に、寄せ書きをして頂くことで参加型の形式をとることができた。また、スタッフとして参加した学生も周囲の方に積極的に声掛けをすることができ、震災を風化させないために関西でもできることをしたい、という共通の目標を全員が持つて本行事を執り行うことができた。

3 来年度の実施に向けて

準備の段階ではスタッフで役割を分担して行うことができたが、スタッフ同士、また当日スタッフとの情報共有を綿密に行えるよう、運営の更なる改善が必要である。また本行事を広く知って頂くために、報道関係者への働きかけを強化したい。当日については、ポスター、スライドショーを含めた会場全体へ参加者を誘導するために、備品やスタッフの配置を工夫する必要がある。

4 スタッフ

田中 岳	奈良県立医科大学 医学科 4 年	事前打ち合わせ、副責任者、機材の運搬
中務 智彰	奈良県立医科大学 医学科 4 年	事前打ち合わせ、当日全体統括、振り返り

阪本	宗大	奈良県立医科大学	医学科 4 年	事前打ち合わせ、報道対応
吉川	大貴	奈良県立医科大学	医学科 4 年	事前打ち合わせ、機材の運搬
竹村	望	奈良県立医科大学	看護学科 3 年	事前打ち合わせ、当日準備
上月	志乃	奈良県立医科大学	医学科 3 年	事前打ち合わせ、懇親会担当、振り返り
宮沢	嘉英	奈良県立医科大学	医学科 3 年	事前打ち合わせ、機材担当、振り返り
津地	ひかり	奈良県立医科大学	看護学科 1 年	事前打ち合わせ、全体チェック、振り返り
高倉	敏彰	和歌山県立医科大学	医学部 4 年	事前打ち合わせ、当日準備
青野	直輝	和歌山県立医科大学	医学部 4 年	
白木	麻衣子	和歌山県立医科大学	医学部 4 年	
福島	純一	和歌山県立医科大学	医学部 3 年	
坂本	朱	和歌山県立医科大学	保健看護学部 3 年	
佐藤	一郎	石切生喜病院(奈良医大平成 26 年卒)		スピーカーの貸与
近藤	和也	奈良県立医科大学	医学科 4 年	
國近	瑛樹	奈良県立医科大学	医学科 4 年	
佐々木	健人	奈良県立医科大学	医学科 4 年	
西川	実沙	奈良県立医科大学	医学科 4 年	
梁	美紗	奈良県立医科大学	医学科 3 年	
浅田	萌	奈良県立医科大学	医学科 3 年	
東本	晃尚	奈良県立医科大学	医学科 3 年	
灰垣	なな	奈良県立医科大学	看護学科 3 年	
神近	奈実紀	奈良県立医科大学	看護学科 3 年	
山本	知世	奈良県立医科大学	看護学科 3 年	
田中	りえこ	奈良県立医科大学	看護学科 3 年	
辰巳	莉紗	奈良県立医科大学	看護学科 3 年	
堀江	きよみ	奈良県立医科大学	医学科 2 年	
中森	滉二	奈良県立医科大学	医学科 2 年	
宇野	花音	奈良県立医科大学	看護学科 2 年	
加藤	明寿香	和歌山県立医科大学	保健看護学部 3 年	
寺前	友樹	和歌山県立医科大学	医学部 2 年	
中井	真衣	和歌山県立医科大学	医学部 1 年	
川端	公貴	和歌山県立医科大学	医学部 1 年	
富山	まりな	和歌山県立医科大学	医学部 1 年	
安藤	愛里	和歌山県立医科大学	医学部 1 年	
大江	直	和歌山県立医科大学	医学部 1 年	
竹村	友香	和歌山県立医科大学	医学部 1 年	
南宅	美咲	和歌山県立医科大学	保健看護学部 1 年	
西田	茉央	和歌山県立医科大学	保健看護学部 1 年	
板井	茉佑	和歌山県立医科大学	保健看護学部 1 年	
松岡	風華	和歌山県立医科大学	保健看護学部 1 年	
宮本	茄奈	和歌山県立医科大学	保健看護学部 1 年	

山腰 歩美	神戸市看護大学	看護学科 3年
岡本 優花	神戸市看護大学	看護学科 2年
藤野 久美子	神戸市看護大学	看護学科 2年
山本 美月	神戸市看護大学	看護学科 2年
中辻 円香	兵庫医療大学	リハビリテーション学部作業療法学科
中西 健二	松阪消防組合	

(総勢 48名)

5 報道

朝日新聞大阪本社 社会部 記者 佐藤 卓史

読売新聞橿原支局 記者 柳林 修

Career Brain 大阪支社 CB ニュース編集部 坂本 朝子

6 協力

(株)湊町開発センター

会場の使用許可・提供、ラティス（ポスター貼付け用木枠）、長机等の貸与

消防署への火気使用申請の助言

明日香村、明日香村地域振興公社

キャンドルカップ 1600 個、風除けリング 1600 個の貸与

社会医療法人健生会 土庫病院

スクリーンの貸与

Fukushima WILL

スライドショーに使用する写真の提供

佐藤一郎先生

スピーカーの貸与

吉川大貴、田中岳（共に奈良県立医科大学医学科 4年）

キャンドル資材の運搬

7 当日の様子

